

とつぜんのおわれ

福山市立霞小学校 三年 前田 一華

お母さんのなき声で、目がさめた。
「どうしたの？」

と、私が聞くと、

「ゆかちゃんが、車にはねられて、なくなった。」
と、おしえてくれた。

ゆかちゃんは、お母さんの妹の大親友で、お母さんも、子どものころから、なかよくしていた。私は、赤ちゃんの時に、あったことがあるらしいけど、おぼえていない。

ゆかちゃんは、お昼、自転車でかいものの帰りに、青しん号をわたっていて、しん号むしした車にはねられて、いきふめいのままびょういんにはこぼれて、そのままなくなった。ゆかちゃんは、大好きな自分の子どもにも、だれにもおわれの言葉も言えないままいなくなった。

しん号むしした車のうんてんしゅさんは、けいたい電話を見ていて、赤しん号に気づかなかつたらしい。うんてんしゅさんにも、子どもがいるときいた。

ゆかちゃんのおそう式にいつて、たくさんの人がいないのを見た。ゆかちゃんの子どもは、ないでなかつた。なんでないかないのかな？と思った。まわりの大人の人たちが、ないでないゆかちゃんの子どもを見て、ないでいた。

私は、ゆかちゃんのこととは知らないけど、みんなが、そのうんてんしゅさんのせいで、みんながきぎずついていないところ悲しくて、私もなみだがでた。

ゆかちゃんがなくなつて、まわりの人がないた。きつと、うんてんしゅさんの子どももないでる。もし、私のお父さんがうんてんしゅさんだったら、私はかなしい。

だから、車のルールをまもらなくてもきつと大じょうぶと思つたときは、一回人の気もちをかんがえてほしいと思う。じこがおこると、たくさんの人をきぎずつけてしまうことをわすれないでほしい。